

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 美術館を活用した子どもの未来につながる感性育成事業費【美術館教育普及活動費】

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県美術館 総務部 管理調整係 電話番号：058-271-1313

E-mail : c21801@pref.gifu.lg.jp

1 事業費

909 千円 (現計予算額 :

0 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
現計予算額	0	0	0	0	0	0	0	0
補正予算額	909	379	0	0	0	0	0	530
決定額	909	379	0	0	0	0	0	530

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

【子どもの感性を育成する活動】

小さな子どもからお年寄りまでを対象として、日比野克彦館長ディレクションのもとナンヤローネ・プロジェクトでは、展示作品を活用してのナンヤローネアートツアーや、作家等を招聘して体験するナンヤローネアートアクションなどを開催し、幅広い年齢層やニーズ、館外からの参加にも対応して、新たな客層を獲得してきたが、若年層の来館者数は多くない。

令和8年度は、若年層、特に子どもたちの感性を育むことを目的として、鑑賞と表現を組み合わせた活動や作家と連携した表現活動を実施することで、若年層の来館者を増加できるようにする。また、現地機関や教育機関への出前講座の機会を活用して、事業について一層の推進を図るとともに、県内での実績をより多く積み上げる。また、園や学校との連携に力を入れ、芸術文化を通じて子どもたちの感性を育成する場を確保していく必要がある。

【感じる学校美術館(スクールミュージアム)】

経済的にも時間的にも団体鑑賞等で学校団体が来館することが難しくなってきているため、本事業を推進することで、次代の美術文化を支え、かつ将来の来館者である児童・生徒の感性を育成する契機となり、将来的な芸術文化の振興に必要となる。令和8年度は開催を希望する教育機関を調査し、次年度以降の実施を検討する。

(2) 事業内容

教育普及活動

(展覧会にちなんだ体験型プログラム)

- ① 感性を育む表現活動（アクション…創作活動を伴う体験型プログラム）
- ② 感性を育む鑑賞（アートツアー…鑑賞と表現活動を組み合わせたプログラム）
- ③ Suchプロジェクト（常設《SuchSuchSuch》）の運営や団体鑑賞における活用
- ④ 現地機関、教育機関との連携事業（出張ワークショップ・出前講座）

【スクールミュージアム事業】

要望のある教育機関の調査。

(3) 県負担・補助率の考え方

小さな子どもを中心とした県民が芸術文化に触れ、身近に親しむことを通して、文化的な感性を育成する機会に資するものとして、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	60	講師謝金
旅費	100	準備旅費、広報旅費、講師旅費
需用費	406	消耗品費、打ち合わせ会議費、チラシ等印刷費
役務費	98	通信運搬費、保険料
委託料	245	業務委託料
合計	909	

決定額の考え方

事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

芸術文化の鑑賞やそこから生まれる表現活動をとおして、「美を楽しむ」活動を幅広い世代、ニーズに応じて提供し、すべての県民の文化芸術振興に寄与する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

開催の場所、時期、内容によって参加者数等が異なるため明確な指標を設定することができない。

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	R4年度ナンヤローネ アートアクション 5回 参加人数 216人 R4年度ナンヤローネ アートツアー 9回 参加人数113人 R4年度ナンヤローネ・プロジェクト@オンライン ・学校連携オンライン授業 1回 参加人数305人 R4年度GIFUワークショップギャザリング 参加人数377人 常設《Such Such Such》体験者数のべ1010人
	指標① 目標 : ____ 実績 : ____ 達成率 : ____ %
令和5年度	R5年度ナンヤローネ アートアクション 7回 参加人数 328人 R5年度ナンヤローネ アートツアー 10回 参加人数110人 R5年度GIFUワークショップギャザリング 参加人数546人 常設《Such Such Such》体験者数943人
	指標① 目標 : ____ 実績 : ____ 達成率 : ____ %
令和6年度	R6年度ナンヤローネ アートアクション 4回 参加人数 156人 R6年度ナンヤローネ アートツアー 8回 参加人数122人 R6年度GIFUワークショップギャザリング 参加人数735人 常設《Such Such Such》体験者数685人
	指標① 目標 : ____ 実績 : ____ 達成率 : ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	アートの楽しみ方を幅広く提供することは美術館が社会に果たす重要な役割であり、そのために関係機関との連携を図ることは、美術館の普及には欠かせない。本事業は、その根幹の事業であり県の関与が妥当である。
-----------	--

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり
2：期待どおりの成果あり
1：期待どおりの成果が得られていない
0：ほとんど成果が得られていない

(評価) 3	岐阜県美術館教育普及事業に対する県民の期待は大きく、事業への参加者も定着している。本事業は美術館の新しい方向性を打ち出すもので、期待以上の成果が得られている。
-----------	---

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価) 2	アートコミュニケーション事業と教育普及活動との連携を図り、美術館イベントにおける管理運営の共同実施が可能となってきている。
-----------	---

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

事前申し込みを必要とするイベントでは、定員数を超える多くの申し込みがある場合がある。申し込みフォームに先着順や抽選などの対応をしているが、参加者のニーズに応じて参加数を増やしても実施できるような工夫が必要である。限られた予算の中での活動や会場の確保に課題がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

美術館を活用した子どもの未来につながる感性育成事業は、県民のニーズに応える事業である。参加者の声を取り入れ、多くの方が体験できる内容の工夫を考えるとともに、本事業のあり方について県民に提案する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	